

第五代緒川城主水野信元は

家康と同盟して協力、三河の支配者だった

H28年度のガイド養成講座において、いつもの高木備太郎先生のお話を聞いた。今回は水野信元について、残されている古文書からその姿を追っている。つまり、残された古文書からその実像に迫る.....というもの。初めて聞く内容だが、かなり信ぴょう性が高いといえる。

水野信元と徳川家康のかかわり

東浦町史の年表に挙げられている事柄は以下のもの。

- 1541 (天文 10) 年 於大、岡崎城主松平弘忠へ嫁ぐ
- 1542 (天文 11) 年 12月竹千代を生む
- 1543 (天文 12) 年 7月12日水野忠政没す、乾坤院葬
- 1544 (天文 13) 年 8月水野信元、織田信秀と同盟 同年於大は岡崎を離縁される。後に久松俊勝と再婚
- 1554 (天文 23) 年 水野信元と織田信長が今川方の村木砦を落とす
- 1558 (永禄 1) 年 水野信元、松平元康と石ヶ瀬で戦う
- 1560 (永禄 3) 年 桶狭間の戦い 水野信元は大高城の松平元康に今川義元の戦死を告げ帰国を促す

水野信元と織田信長のかかわり

東浦町史の年表に挙げられている事柄は以下のもの。

- 1561 (永禄 4) 年 このころ水野信元が立ち会い、織田信長と松平元康が清州城で会談し同盟
- 1563 (永禄 6) 年 水野信元三河一向一揆に参戦
同年水野信元、松平元康・織田信長と並んで足利義輝の外様在国衆として記される
- 1568 (永禄 11) 年 水野信元は織田信長に従い入京し、イエズス会の会堂を宿舎とする
- 1570 (元亀 1) 年 水野信元・忠重、姉川の戦いに参戦
- 1574 (天正 2) 年 3月に水野信元は、足利義昭から信長討伐を命ずる文書を受ける
(この文は家康にも送られ、甲州の武田勝頼と協力せよというもの。しかし、信長は將軍のこうした動きを察知していた。)
- 1575 (天正 3) 年 12月に水野信元は、織田信長の命令で殺される

以下に示された古文書の写しを示し、整理してみました。

水野信元について

残された古文書から
その実像にせまる

② 水野信元朱印状写し（越境寺文書）

越境寺の寺領と祠堂物の他人からの干渉の保護者であることを、信元が保証している。

水野信元朱印状（越境寺文書）
越境坊主之儀誰々二候共
又其主咎を仕替り候共寺領
并志堂物者寺相續仕候
者覚悟次第たるべき者也
為其後日證状如件
永禄貳年己未五月三日 信元（朱印）
越境寺

緒川の権力者を示すものとして.....

① 水野信元朱印状写し（善導寺文書）

この文書の内容は、清水なる者が善導寺に寄進した土地の権利（善導寺の）を、信元が間違いないと保証している。

水野信元朱印状写（善導寺文書）
善導寺へ清水左京亮きしん下地之事
合八百五十文め 坪石とう二百文め
同三ツ池五百五十文め
末代本そんへきしんいたし候、然者無
ゑん所之儀之事候間、落居申候ハバ可
如何有候と子細被申候間如此候、若
何時清水左京亮前相違之儀候ハバ從
此方之きしんたるへく候、仍為後日一
筆如件
天文廿壹年壬子三月八日信元（朱印）
善導寺へ

③ 水野信元朱印状写し（延命寺文書）

小塚弥助なる者の、土地の売買を信元が保証している。

以上の三つの文書から、信元は「緒川城主」として、地域のお寺の保護者であり、地域の武士たちのもめ事を抑える、超越的な公権力として登場している。

緒川城主信元と刈谷城主信近の関係

- ① 近守 --- 守忠 --- 信近の三代にわたり、「藤九郎」を名乗る刈谷水野家の独自の系譜そのものについては、異論がない。
 - ② しかし、信近は忠政の息子であり「右衛門大夫妙茂」が忠政とすれば、彼自身も刈谷支配に関与していたと見ざるを得ない。
 - ③ 近守・妙茂(忠政)・信元は近似した朱印を使用しており、これはこの三人の地域の支配の継承関係を表現しようとしたものと考えられる。
- ※ 野間大坊に造作時の番匠（大工）の派遣を保証しており、信元は番匠（大工）を組織できていたことを示している。

永禄5年以降、信元は三河支配に参与していた

永禄3年の桶狭間の戦い以後、特に信長・家康・信元が清州で同盟を結んで以降、信元が三河の支配に参与している文書がいくつも見ついている。特に家康が三河の平定をするには、三河一向一揆を乗り越えて初めてできたこと。この一揆は家康にとっては、かつての一族との戦いでありと

ても苦戦している。信元がこの戦いを助けて一揆を治め、三河を平定することができた。このことから、信元の存在は大きく且つ、三河の西を支配していた証となる文書が多く見ついている。

このことから信元は家康ともども三河を支配していたと考えられる。

①水野信元安堵状（無量寿寺）

三河平坂の山の開発権を無量寿寺（本願寺三河五ヶ寺の一つ）に与えている。これは信元が三河においても、何らかの公的位置を持っていたことを示している。

②水野信元書状

更には本光寺文書が確認されており、その文面は三河一向一揆後の紛争処理に、水野信元が参与していたことを示している。

他にも東浦に関係する、乾坤院に関する西明寺文書、牧野氏の跡目争いについて保証する牧野文書、桜井寺文書が見ついている。

水野家は初代の水野貞守から、三河の1部（刈谷付近）を支配していました。

水野信元書状（本光寺文書）
猶以深溝家中上下之借儀、右之分二候、深溝へも達而異見を申候、此外不申候
深溝米錢旧借付而、去年中、一揆之刻、不可有返弁之一札を深溝江被出候、然処当春属無事之時如前々と土呂其外へ一札被出候、只今御相論如何候間、来年中二本米本錢を以、從深溝返弁被成候へ、当年之儀ハ一円納所成間敷候、此旨岡諸宿老衆被談合仕申定候、双方之御為第一国之御為、旁以家康も祝着可申候、國中何方之家中も同前候、但永年計相除候、其外借義一切二本を以、来年中二可有其沙汰候、岡崎同心之衆、点を被合候、各不及御異乱、御合点可被成候、恐々謹言
十一月朔日 信元（花押）

宇宙山乾坤禪院造営之事三派之評書（西明寺文書）
客殿 周鼎派（中略）
僧堂 太素派（中略）
庫裡 亨陰派（中略）
客殿 僧堂 庫裡 此三家大破付而者從三派有助成可被成建立者也仍評定如件
永禄十丁卯年六月吉日
周鼎派（花押）
太素派（花押）
亨陰派（花押）
信元（花押）
家元（花押）